

【取組内容①】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すための、ICT活用を明確に位置づけた授業づくり

本校の校内研究について

研究主題

いきいきと思考し、ともに高め合う子どもの育成  
～ICT活用で創る新しい授業・学校のかたち～

以下の流れを参考に、授業づくりを進めていって下さい。

- ①単元、授業場面の設定をする。(学年、教科、単元・題材名、第〇時・・・)
- ②単元、または本時でどのような力をつけることができれば良いのか検討する。(ゴールイメージを持つ。)
- ③本時では、どのような教科の見方・考え方を大切にしたいかについて検討する。  
(前回の校内研修で提案して頂いた、各教科のポイントを参考に)
- ④学年部ごとに児童の実態について話し合う。(学習面・生活面等)  
・良いところ  
・課題
- ⑤ICT活用方法を検討する。(つきたい力に向けて、効果的に活用することを目指す。)

以下の授業づくりの視点を意識してください。

授業づくりの視点

- ☆各教科の見方考え方を働かせることができたか。
- ☆ICTは効果的に活用されていたか。
- ☆個別最適な学び、協働的な学びは実現されたか。

②は教材観、④は児童観、②～⑤は指導観につながる部分であると考えます。⑤については授業づくりをしていく中でどんどん変わっていく部分かと思えます。今日は決まっていなくても構いません。

本校では、研究主題をもとにした仮説の検証に向けて、左記のようなワークシートをもとに授業づくりを進めている。

その際、授業づくりの視点の1つとして、「個別最適な学び・協働的な学びの実現」をキーワードとして挙げている。下記は本校で共通理解している「個別最適な学び、協働的な学び」のイメージである。これらを両輪で、一体的に充実させていくことを目指している。

個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実イメージ

個別最適な学び・協働的な学び

必要に応じて、ICTツールを活用したり、1人で粘り強く取り組んだり・・・自分に合った解決方法を自由に選択し、決定することができる。

個別最適な学び

友達と関わる必然性を生み出し、共に問題解決を図ろうとする。

協働的な学び

次ページは、授業事例

## 【取組内容①】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すための、ICT活用を明確に位置づけた授業づくり

## 6年生算数科の実践より

実際に指導案を作成する際には、下記のように視点に対する具体的な記述を行った。本時は共同編集可能な学習支援ソフトを活用した。

## 5 展開

- (1) 本時目標 数量の関係が分数倍（割合）で表された場面で、分数倍（割合）や比較量を求めることができる。
- (2) 準備物 掲示用資料、配布用資料、テレビ、chromebook（教員用・児童用）
- (3) 授業づくりの視点について

教科の見方・考え方

→小数倍（割合）の考え方に着目し、乗数が分数の場合でも割合の考え方が適用されることを理解できるようにする。（乗法の意味の拡張）

ICTの効果的な活用

→考え方や課題解決に向けてわからない点について、共有するツールとして活用する。

個別最適な学び、協働的な学び

→②の ICT の活用を通して、必要に応じて情報を得たり、発信したりすることができるようにする。

## 【現時点における成果】

クラウド環境上の学習支援ソフトを活用することで、全体での解決の時間をとらなくても、必要な時に必要な情報を共有することができた。

また、解決に向けての必要な情報（立式についてや、大切な考え方等）が記録として残るので、いつでも紹介したり、参照したりすることができた。



課題解決に向けて、クラウド上に自分の情報を発信する様子。



直接やりとりした方が良いことについては、自由に友達のところに行って一緒に解決しようとする姿が見られた。